

～もうすぐ1年生～

もうすぐ1年生のぞう組さん。子どもも大人も新しい世界への挑戦はドキドキしますね。楽しみと不安がまじりあって、一歩踏み出すことがままならないこともあるでしょう。それでも、どんぐり保育園の先生たちはいつでも応援しています。学校に行っても、いのちを大切に、家族のお手伝いを少しはして、毎日元気にすごしてください。

ぞう組の子どもたちは、このところおやつ前、給食室に野菜くずをもらいに行き、交代で野菜くずを畑に埋めるお手伝いをし、次の幼児クラスの畑づくりのために力を貸してくれています。また、12月からにじほし太陽の1人ずつが3人組になって、ちびっこ先生をしています。「小さいクラスのお昼寝後のお手伝い」「玄関の掃除」をします。やり方はまだ不十分なところもありますが、友だちと声をかけあって、保育園の中で誰かのために、頼られる、一人の働き手としての経験を広げています。誰かにあてにされて、認められながら、確かな自分を形成途中です。大きくなりました。もうすぐ1年生おめでとう。

1歳児期の“イヤ、ダメ、ジブンデ”に始まり、2歳児期は“ミテミテ、ヒトリデデデキルヨ”、3歳児期は“自分のこともできるけど、お手伝いもしたいやりたがり”、こうして少しずつ幼児期は“自分のことが自分でできる確かな力”を培い、その力を誰かのためにも使えるようになっていきます。自分のカバンを自分で持って登園し、毎日の着替えの補充や、手拭きタオルの取り換え、ノートを出したりしまったり、家に帰ったら洗濯物を脱衣所に持って行ったりこんな繰り返される日常が、次の学校生活の自分の身の回りのことができる力や、学習前にノートや鉛筆や必要なものを用意する、学習の土台形成にもつながっています。大人は、子どもが自分でできることは子どもにまかせ、一人前になろうとする子どもの姿を見守り応援していきましょう。

～二十歳のつどい～

毎年3月の第1土曜日に「二十歳のつどい」を開催しています。参加は、本人のみ、親のみ、親子、と様々です。在園中に関わりのあった職員を中心に、転勤、退職した職員もつどい、卒園児が成人したまぶしい姿を前に、保育園時代の思い出を振り返りながら、成人を祝います。乳幼児期を一緒に育ちあってきた、我が子とお友だちの成長を確認しあう時間は、嬉し、懐かし、楽しい時間です。いろいろありながら、ジグザグしたり、回り道したり、少しずつ成長を重ねていく子どもたちです。今年も18人の卒園OBの参加が予定されています。

～法人の記念事業 2018年冬開催！～みんなの子どもはみんなで育て、大人も子どもと共に育ちあう保育園

1964年3名の名大職員の行動から保育所づくり運動が始まりました。その後、名大教職員、大学院生、生協職員が一緒になって「名古屋大学保育所を作る会」を発足させます。大学当局への働きかけと運動により1968年に東山共同保育所が誕生し、翌年この地に大学がプレハブの園舎を建てました。保育所誕生から50周年(1968年)・法人設立から40周年(1976年認可)の記念事業を2017年度に開催します。

～厚生労働省へのパブリックコメント:3月15日まで～ パブリックコメントは国民の意見表明の絶好の機会です

厚生労働省は2月14日に、2018年度から「国旗」や「国歌」に親しむことを指針とすることを盛り込む「保育所保育指針」の改定案を公表しました。「幼稚園教育要領」には、すでに同じ表現が「国旗」については盛り込まれていて、「国歌」については2月14日に改定案が示されました。厚生労働省は同時にパブリックコメント(意見公募)を実施します。3月15日までが意見募集期間です。国という概念もまだ持たない子どもたちに「国旗」「国歌」を導入し、どんな土台を形成しようとしているのか。どんぐり保育園ではパブリックコメントを厚生労働省に届けたいと考えています。ご協力よろしくお願い致します。意見提出先は①メールの場合「電子政府パブリックコメント保育指針」から検索②FAXの場合 03-3595-2674 厚生労働省雇用均等児童家庭局保育課企画調整係